



株式会社スカイ 2022年1月11日発行 URL: <https://www.sky-precut.jp/>

■本社 静岡県磐田市上野部2740-5 TEL 0539-63-5500 FAX 0539-63-5633  
■関東営業所 神奈川県相模原市南区大野台3-25-17 TEL 042-704-6211 FAX 042-704-6212



## 新春のご挨拶



代表取締役 金澤 和孝

2022年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

ご周知の如く、昨年は春先から「ウッドショック」と呼ばれる、近年稀にみる木材不足に見まわれ、かつてない厳しい年となりました。

弊社におきましても特定部位の木材が不足したことにより、一時は操業体制を大幅に見直さなければならぬ状況となり、皆様方に変なご不便をおかけすることとなりました。新年早々ではあります。改めてお詫び申し上げます。

さて、この様な木材不足及び大幅な価格変動は、今後どの様な推移を辿っていくのでしょうか。

明確な予測が出来るはずありませんが、今後については「何が起きてもおかしくない」といった、ある種開き直りに近い「覚悟」

を私共に植え付けさせた、いわば革新的な年であった様に思います。

未だコロナから脱せず、混沌とした状況の中で新年を迎えることになりましたが、弊社としては昨年経験した様々な事象や社会情勢に鑑み、真正面から向き合い、最大限対応可能な基盤を整えていく所存です。

ものづくりには、欠かせない要素の一つとして安定供給が挙げられます。ウッドショックを経て、この供給網の不安定さが改めて浮き彫りになった訳ですが、材料の安定供給のみならず、今後益々深刻化するといわれる高齢化社会における職人不足についてもしっかりと向き合っていく必要があります。様々な面からの「備え」を根本的に組み替えることが必要な時代に突入したと言えるでしょう。

昨年は、弊社組織の一部を再編致しました。

我々プレカット工場の役割とは何かを日々念頭に置き、皆様のニーズに対応すべく、部分的な施工面でも支援出来るよう建設部門を改めて強化致しました。

再編前は建設業務と計算業務は同一部門でしたが、今後最も必要とされる分野として、それぞれの部署を分離し、本年は両部門の強化に尽力致します。

計算業務では、協力業者のネットワーク強化を行い、更に積算支援面では、プレカット以外の建築資材にも対応できる様、新ソフトの導入を行いました。

資材部門では、国産材の需要拡大に取り組んでいくとともに、ストックヤードの拡充を図っていくことで、今まで以上に安定的な商品の供給が命題であると受け止めております。

又、来るべき職人不足への対応及び断熱施工の合理化に向けた「スカイパネル」の製造を機械化し、より精度の高い商品へとグレードアップさせる準備を、秋口

に向けて進めております。詳細は次頁の別途要項で紹介させていただきますが、断熱性能の高性能化が進められる中、断熱材の選択や仕様についても、再考のタイミングかと存じます。

### 「備えあれば患いなし」



以上、誠に微力ではございますが、弊社の取り組みが皆様方にとって少しでも「備え」となれるよう精進する次第です。

不安定な情勢だからこそ、弊社の様な独立した中小企業が存在意義があると強く意識し、激動となるであろう2022年をしっかりと進んで参ります。

本年もご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

# スカイパネル工場新設へ

— 求められる製品の開発と提供を目指し、動き出す —

スカイパネル工場新設計画は、本年1月より既存建物の解体に着手し、今秋頃の完成を目指し建設がスタートします。今回は、工場建設に至った背景や今後の利用方法について特集します。

## 建設業界が抱える問題

～大工不足～

HEAT20・G2、G3へと断熱性能をアップさせた場合、現在主流である充填断熱材（壁厚内）

だけでは性能確保が難しく、壁の外又は内側に断熱材を付加させる必要があります。断熱性能をアップさせるということはそれだけ作業手間が増えることとなります。しかし建設業界は既に慢性的な人手不足です。特に大工職については2015年の総務省「国勢調査」で、約35万人と20年間で半減しています。更にその中の約39%が60歳以上です。2025年には70歳以上となり、深刻な就労状況となります。

減しています。

## 脱炭素社会実現に向けた

国の取り組み

国では、中期的には2030年長期的には2050年を見据えて、脱炭素社会の実現に向けた、住宅・建築物における省エネ対策を決定しています。

2021年4月より「建物の省エネ性能」について、建築士から施主への説明が義務化されました。これに加え、2025年には省エネ基準適合義務化、2030年にはZEH基準レベルまで省エネ性能を確保することが求められます。

また、住宅性能表示制度の断熱等級に上位等級（HEAT20・G2、G3相当）の等級6・7を創設し、2050年のカーボンニュートラルに向けて断熱性能アップが求められることとなります（図1参照）。

現行水準		地域の区分								
		1	2	3	4	5	6	7	8	
住宅 品確法 断熱等 性能等級	等級2 (S55基準)	U <sub>A</sub>	0.72	0.72	1.21	1.47	1.67	1.67	2.35	—
		η <sub>AC</sub>	—	—	—	—	—	—	—	—
	等級3 (H4基準)	U <sub>A</sub>	0.54	0.54	1.04	1.25	1.54	1.54	1.81	—
		η <sub>AC</sub>	—	—	—	—	4.0	3.8	4.0	—
	等級4 (省エネ基準)	U <sub>A</sub>	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	—
		η <sub>AC</sub>	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7
ZEH	強化外皮基準	U <sub>A</sub>	0.40	0.40	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60	—
民間基準 (参考)	G1*	U <sub>A</sub>	0.34	0.34	0.38	0.46	0.48	0.56	0.56	—
	G2*	U <sub>A</sub>	0.28	0.28	0.28	0.34	0.34	0.46	0.46	—
	G3*	U <sub>A</sub>	0.20	0.20	0.20	0.23	0.23	0.26	0.26	—

上位等級、ZEH水準を上回る等級の水準案		地域の区分								
		1	2	3	4	5	6	7	8	
住宅 品確法 断熱等 性能等級	等級5 (上位等級(バプロメ済))	U <sub>A</sub>	0.40	0.40	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60	—
		η <sub>AC</sub>	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7
	等級6 (ZEH水準を上回る等級)	U <sub>A</sub>	0.28	0.28	0.28	0.34	0.46	0.46	0.46	—
		η <sub>AC</sub>	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	5.1
	等級7 (ZEH水準を上回る等級)	U <sub>A</sub>	0.20	0.20	0.20	0.23	0.26	0.26	0.26	—
		η <sub>AC</sub>	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	—

※「2020年を見据えた住宅の高断熱化技術検討委員会(HEAT20)」策定の基準G1～G3

【図1:住宅性能表示の現行水準、ZEH水準、ZEH水準を上回る等級の水準案】

これに対応すべく、弊社では2020年より「スカイパネル(4方枠材付真壁パネル)」を製造・販売しています。



## スカイパネルの

### 今後の利用方法

スカイパネルは外部面材に四方枠材を取り付け、断熱材を接着した真壁タイプの壁パネルです。パネルの施工に特別な技術は必要ありません。上棟日に外周枠が出来上がり、施工性が飛躍的に向上します(図2参照)。

今回新設する工場では、新たにシーリングマシン及び自動枠組機を導入しています。

弊社では今後、スカイパネルのみではなく、外断熱材のカットや省施工部材の開発についても積極的に行ってまいります。今後、時代のニーズに対応すべく、求める商品の開発に関してのご要望は、是非弊社営業担当者へお伝え下さい。営業一同、お待ちしております。

東海営業部 花田 裕弘



【図2:スカイパネル施工の流れ】



# 「静岡県立農林環境専門職大学」に於ける

## 弊社社会長 高橋による講演次第



### 【1】県立農専大とは

静岡県立農林環境専門職大学は、令和2年4月に新設された専門職大学です。静岡県磐田市に本部があり、県内各地に機械研修場、牧場、演習林等を設置しています。

静岡県立農林大学校を前身とし、農林業分野に関する加工や流通、経営、先端技術等を学び、その道のプロフェッショナルを養成する事を目的としています。

静岡県立農林大学校時代より工場見学に来ていただいたり、令和2年開学に向けた新校舎新築工事の一環として、弊社にて加工を行ったCLTが採用されています。

### 【2】講義の主旨と意義は

こちらの大学の「生産環境経営学部 林業コース」では、造林学や森林計画等の森林施業技術や木材加工等の専門的な知識や技術を学んでいます。この学部では



写真の正面玄関キャノピー部分にCLTが使われています。このCLTには静岡県産材のラミナを使用しています。

静岡県内の企業のトップを講師として招き、講話をしていただくことを授業の一環として取り入れています。今回は、以前より繋がりがあった弊社が依頼を受け、実現となりました。

### 【3】講演のテーマは二つ

- ① 地域産木材資源の木造住宅、非住宅・大規模建築物への利活用動向
- ② プレカット事業などの概要及び今後の展望

### 【4】講演風景と学生の反応

日本は国土面積の7割を森林が占める森林大国であるにも拘わらず、国産材の利用が少ない現状について触れると、学生は「意外」といった表情を浮かべていました。

そういった中で国産材の有効活用する方法としてCLTの紹介をすると、今まで見たことのない大きな木材に、とても驚いた様子でした。

又、講義の中で、弊社にて加工・施工を行った特殊物件の動画をみていただきました。



身近にある飲食店や公共施設等に弊社が関わっていること、そして住宅以外にこれだけ多くの木材が利活用されていること、とても興味深いようでした。

最後の質疑応答では、ヨーロッパのCLT加工機を導入した理由や、農経営を学ぶ学生らしい「どうやって会長になられたのですか？」という直球な質問が出ました。高橋が中途採用で弊社に入社し、営業マン・配送から始まり、社長、会長になるまでのヒストリーを一通り話し、「大丈夫！君達も絶対社長になれるよ！」と励ますと、学生は驚くも目を輝かせていました。

### 【5】学産協調の将来に期待

今回、大学の講義の中で、実際木材加工業界ではどういったことが行われ、取り組んでいるのかを直接学生へ伝えることが出来たのは、とても貴重であったと感じます。

ここ近年、コロナの関係もあり、採用活動においてはネット中心となり、ガイダンス等で直接学校へ出向いて学生と話をする機会が少なくなりました。

そのため、今回のような機会を通じて、少しでも弊社をはじめ個別企業の内容に対し、事前に興味・関心を持つ学生が増えていくことを願っています。

講義後は、来年度、経営に関する経験を積む一貫として、弊社へのインターンシップ受け入れも約束しました。

弊社では、各種高校、大学におけるインターンシップの受け入れも積極的に取り組んでいます。



ぜひお問い合わせ下さい。

# 「成長と分配」って何？

よく分かっていないように実は意味不明

一醉三幸寮主

私が属している業界は、建築業なのか、製造業なのか、時折分からない時があるのだが、無理して区切ってしまう事も無い業界である。

考えてみれば、事業というのは明確に線引き出来難いものの方が面白い。展開可能性の多様なものが試されるところに本当の実力は顕われるものだ。

さて、最近まで政治の話(選挙)が賑やかであったが、中でも成長と分配についての話が狐狸に誑(たぶら)かされたような話で、いささか気持ちが悪かった。

大体三〇年近くも経済停滞しているこの国で、格差拡大だけが進行した理由は一体何だったのか。これを政治家は説明出来なければならぬ。

経済成長して尚且つ格差拡大が同時平行ならば、他国の例を見ることが出来る。しかし、利益の分配比率のみが変動したのは、先進国で日本だけなのである。

これは不労所得依存階層の急激な増加が原因なのだろう。

この層に対する分配の資源を、

どこから集めるかと言えば、額に汗して働く階層からでしか無い。そもそも経済規模が人口増加率より拡大しない限り、経済成長したとは言えないのだ。しかし不労所得依存階層は、高齢化・長寿化によって何の遠慮も無く増え続ける。

右の理屈は、当然政治家も役人も分かっていて、解決する妙案など無いのも現実なのだろう。

そこで、まことしやかに成長して分配しようなどと、出来ない事を当然のような顔をして言うしかないのだ。

人口増加しない限り、経済規模の拡大は有り得ない。経済規模の拡大を成長というのだから、日本は(世界も)本筋で人口とどう向き合うのかを自らに問い詰めるければならない。その中では、「日本人の定義」又は「国民の定義」を明確に定める必要がある。

「日本語が喋れて、日本に住んで、日本に税金を納める者は日本人である」ということを、果たして現在の日本人と言われる人々に納得させられるのだろうか？

出生率を高めて人口を増やすなどという、一見如何にも正当性があるような理屈など、井戸端の茶話ほどの意味も無い。

結論として、経済成長は諦めるべきだ。分配のみを公平公正なものに導き向けることが、結局緩やかに社会の質を変え、新しい日本文化を成長に向かわせるものとなるだろう。

又、東京一極集中は、日本社会全体の不安定要素を拡大することのみで、破壊への一里塚であること、若者男女全てが理解すべきだ。

大体、日本社会全体の危険分散という観点からしても、何から何まで東京に集中している現実、日本人が自滅の方向に喜び勇んで手を取り合って駆け出している光景にしか見えない。

さて、選挙の中で感じたのだが、東京選挙区選出でも無い政治家が、何で東京に居を構えているのだろう。地域代表という、選挙制度上からも理念からも間違っている。ならば、全国一区とするべきだ。名目上だけの地方区分散など必要も名分も無いではないか。

## インターンシップの受け入れに関して



インターンシップとは学生が、興味のある企業等で実際に働いたり、訪問したりする職場見学や体験のことです。

日本では2000年頃から導入が活発になり、現在では全国の大学の7割近くが単位認定を伴う授業として実施されています。企業側も積極的な受け入れを実施していることから、多くの学生や専門生が、積極的に参加しています。

弊社では、学校や地域の皆様に、木材業界や弊社の業務内容・取り組み方針等、幅広く知ってもらい機会として、更に人材確保の有力なツールとしても、積極的に取り組んでいます。

インターンシップには、短期間から長期間まで様々な種類があります。弊社で受け入れているのは、半日から1日程度の短期型が中心となっています。

又、弊社ではインターンシップだけでなく、地元中学校を対象とした体験型職場見学や、地方公共団体との連携による地元高校生との交流会等にも、年間を通して積極的に取り組んでいます。

インターンシップや職場見学を開催して感じることは、弊社に

とつても、若い皆さんの考え方や感じ方を直接体感できる絶好のチャンスであり、職場の問題点や改善点などのヒントをいただく為の良い機会でもあるということです。

そして何よりも、弊社に入社してほしいと感じる将来性豊かな人材に出会えることが大きな魅力です。

実施の度に、運営責任者として経験不足や能力不足という、反省点や課題を見つけていることが多いのですが、若くて新鮮な皆様との出会いや交流が出来ることを励みに、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

総務本部長 河合 靖

## 編集後記

明けましておめでとうございませう。今年の干支である壬寅には、「厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となる」という意味があるようです。

弊社としても、今年1年が大きく飛躍した年となる様、努力を怠らず、一步一歩前に進んでいきたいと思っております。

本年も宜しくお願い致します。